

胆沢区、衣川区 被害甚大

平成20年6月14日午前8時43分、岩手・宮城内陸地震発生——。今まで感じたことがない激しい揺れに、だれもが驚き、慌てたのではないだろうか。気象庁によると、震源は岩手県内陸南部で、マグニチュード7.2、最大震度6強。わたしたち奥州市と一関市、宮城県栗原市など広範囲にわたり大きな揺れに見舞われました。本市全域で震度5強以上を観測。特に衣川区で最大震度の6強を、胆沢区で震度6弱を観測し、この2自治区は甚大な被害を受けました。市は、今回の地震で被災した皆さんに心よりお見舞いを申し上げるとともに、1日も早い完全復興を目指し取り組んでいきます。

岩手・宮城 内陸地震発生

衣川水沢線

死傷者33人の大惨事 ライフラインも寸断

本市を襲ったこの地震は、胆沢区・衣川区を中心に、大きな傷跡を残しました。市内では、胆沢ダムの建設工事に従事していた男性1人が落石により尊い命を亡くしました。心からご冥福をお祈りいたします。また、重軽傷者は32人。地震による土砂崩れのため、乗っていたバスが土砂に押しされてがけ下に転落し負傷した事例や、割れたガラスで負傷したものなどがありました。

ライフラインの被害も深刻でした。奥州市内全域で1942戸が停電。断水は1000戸を数えました。停電は6月17日にすべて解消しましたが、断水は被害がひどく、復旧まで時間を要しました。「寸断された送水管を修理し通水しては、新たな寸断箇所が見つかる」という繰り返しで、夜を徹した不眠不休の作業が続きました（断水は26日にすべて解消）。この間、市や自衛隊の給水車が給水に当たったほか、自衛隊が仮設風呂を設置、被災者の入浴に一役を買いました。

道路は、国・県・市道合わせて最大で35路線が通行止めになりましたが、復旧作業により現在の通行止めは21路線になっています（7月2日現在）。

【地震の概要】

- 地震発生日時 平成20年6月14日午前8時43分ごろ
- 震源地 岩手県内陸南部
- 震源の深さ 約8キロメートル
- 地震の規模 マグニチュード7.2
- 最大震度 震度6強（衣川区、宮城県栗原市一迫）
- 地震の特徴 浅い震源による激しい揺れと史上最大規模の山体崩壊。また、家屋の倒壊による被害はその規模に比べて極めて少ない。（地震・自然災害・火事対策ガイド：和田隆昌氏）

衣川区下河内地区

土砂ダム崩壊の危険性は低い 3世帯に避難勧告発令

住宅は、228棟が被害を受けました。全壊はなく、半壊が2棟、残り226棟は一部損壊でした。また市は県の協力で「災害住宅応急危険度調査」と「宅地危険度調査」を実施。専門員が家屋や宅地などを調査しました。修繕・安全対策が必要などところへはお知らせをし、注意を促しました。また、自主避難については最大時29世帯80人が、避難所での生活を余儀なくされました。特に危険な世帯へは避難勧告を出しました（6月23日発令。3世帯5人）。避難勧告が出た世帯は、余震や降雨による落石の可能性が高く、命の危険にさらされるため現状では家には帰ることができません。苦渋の決断で愛着のある住み慣れた家・土地を去るほかありませんでした。

山の崩壊により土砂が川をふさいで水がたまる土砂ダムは、土砂災害専門員が上空から現場を視察。胆沢区の尿前川、衣川区の北股川上流で土砂ダムの形成を確認しました。しかしいずれの土砂ダムも越流しているため、水がたまり崩壊する危険性は低いという結論が出ました。これにより土砂ダム決壊による土石流被害はないと判断され、一応の安心を得ました。

復興に向け
市民一丸

震度6強を観測 まちの被害は